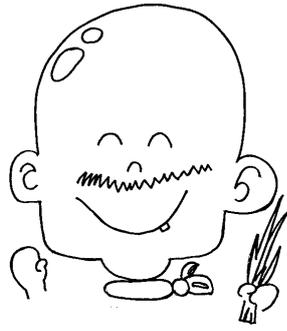


農大同窓会報

発行所
愛知県立農業大学校同窓会
岡崎市美合町字並松1-2
電話(0564)51-1601

編集発行人
同窓会長 柴田 隆夫
印刷所 (株) イヅミ
電話(0564)21-2657

ごあいさつ



会長 柴田 隆夫

毎年の様になってしまった異常気象と付き合いながら、日々御活躍の事と思われれます。又同窓会活動に御理解、御協力いただきまして誠にありがとうございます。

今年のテーマは、なんとと言っても、新型コロナウイルスの感染拡大による社会の混乱ですね。

本校でも入学式、講義を始め、定例会議の中止など、多大な影響を受けました。年明け早々から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は世界的パンデミックにまで至り、この原稿を書いている時点では収束の兆しも見えていません。

日本でも矢継ぎ早にいろいろな対策が講じられてきました。強制的なロックダウン(都市封鎖)までのことはありませんでしたが、緊急事態宣言が出され、日本人の均質で協力的な行動で、一時は圧倒的に抑え込んだとみられました。世界から見ればこれは驚異的な事でした。しかしその後、第2波とみられる感染の拡大で、先の見えない長丁場の戦いになる事がはつきりしてきました。

政府も、夏頃には抑え込んでその後、経済活動を徐々に再開できるといふシナリオを描いておりました。GOTOキャンペーンはその目玉だったのですが、出鼻をくじかれた形。休業補償も現実的には支えきれなくなってきました。

そんな中、スウェーデンでの対策が一部で見直されつつあります。世界のマスクミ(日本も含め)

は、高齢者の死者をかなり出したことで、失敗であったという論調が支配的なのですが、YouTubeで「スウェーデン移住チャンネル」吉澤智哉さんという方が、世界での誤解された報道の指摘と現地で起きている事、市民レベルでの日常生活について冷静に発信してくれています。

その内容は、一部での失敗はあったものの、国民はおおむね政府の方針に理解を示しており、最近では、一般市民レベルの日常生活は、コロナはすでに過去のものになっている。というものです。死者の人数もほぼ0人になっており、新規感染者も減少のトレンドがはつきりしてきています。

都市封鎖の切り札は持ちつつ、医療崩壊だけは起こさせないというコントロールで乗り切った様にも見えます。

「正しく恐れる」をやり切ったのでしょうか。世界多くの国と違った対策からすると、かなりゆるい対応をして集団免疫を目指すといったと思われるスウェーデンコロナ対策。アンダース・テグ

ネル博士という方が、基本的に陣頭指揮を執ってきたのですが、「今後、同じ様な感染拡大が起こった時の対応は基本的には同じ事になる。」と述べています。

危機の最中であって冷静な判断を下すのは、大変な事であったと思われれます。

きちんとした評価が定まるには歴史の審判を待たなければなりません。が、時代の空気や流れに安易に同調せずに取り組んだこの事例は、人類の進歩や挑戦



ごあいさつ 同窓会員の皆様

校長 堤 公生

同窓会員の皆様方には、益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃から、柴田隆夫会長を始め、同窓会の役員、理事、会員の皆様方には、本校の円滑な運営に格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、私は、この4月に農業大学校長を拝命いたしました堤と申します。昨年度、副校長を勤めた経験を生かし、職員、学生とのコミュニケーションを図りながら円滑な教育研修業務の運営にあたってまいりますので、同窓会員の皆様方には、歴代校長と同様、よろしくお願い申し上げます。

にとつて大きな資産になりそうです。

未知の事態に向き合ったとき、情報の収集と深い洞察力。冷静な判断と強い決断力。そして、間違つたときには率直に認める強さと修正能力。この事は私たち農場経営の舵取りをする者そして次代を担う若者にとつてもとても大事な事だと思えました。

自立的に冷静に考える力、大切に育てなくてはなりません。

海外派遣研修から2年生が帰国した2月初旬以降、新型コロナウイルスウィルス感染症対策が強化されるなか、参集者数を制限して令和元年度卒業式を3月5日に執り行ない、農学科90名が新たな進路に進みました。卒業生90名中、33名が就農(後継者就農と農業法人への雇用就農)し、

就農前提の一時就職や海外研修が15名、進学が1名、そしてJA等への就職が38名でした。本県農業の担い手として、また、農業を支える人材として、卒業生の今後の活躍を大いに期待しています。同窓会の皆様には、

機会がございましたら、先輩としてこれら卒業生への御指導、御支援をお願いいたします。

卒業式以降も、感染症の拡大防止のため学校行事の中止、縮小、休校措置をとらざるを得ない状況が続いています。「愛知県緊急事態宣言」を受けて社会全体が自粛態勢にある中、4月9日に予定しておりました令和2年度入学式及び翌10日の始業式は、中止といたしました。本年度の新入生は過去最高の140名の受験者から選ばれた104名ですが、期待と不安の入り交じるなかで自宅待機を余儀なくされました。昨年度末の終業以降、2か月以上休校状態が継続しましたが、ようやく6月1日から2年生95名を加えた199名の学生たちの新学期が始まり、講義や実習が再開され校内にも活気が戻ってきました。とは言え、通常どおりとはいかない場面も多くあり、夏季休業の短縮を始め、教育計画の組み直し、学校行事の変更などを「新しい生活様式」に配慮しつつ、手探り状態で進めています。コロナ禍のなかで、同窓会員を始め学生及び父兄各位には、大変な御迷惑と御心配をおかけしております。これまで、休校中の本校ほ

て、感謝申し上げますとともに、今後も学校運営等に御理解と御協力をお願いいたします。

さて、最近ではスマート農業技術の開発と現場実装が推進されていますが、本校においても本年2月からICTを活用した温室でトマト栽培を開始しました。栽培環境を制御し生育や収量が向上する一方で、収穫や調整作業量が増加する実態を経験することで、学生たちは新技術の導入による生産性向上と経営管理の在り方について学んでいるところです。また、6月には企業の御協力を得て、ロボット田植機を作物専攻実習で体験することができました。最新の技術に触れて、生産現場で使いこなすための手法について考える、絶好の機会となっております。今後ますますスマート農業への期待が高まるなか、先端技術を有効に活用する知識を習得するためのカリキュラムが重要となっております。本年度は令和7年度を目標とする教育研修基本計画を策定することとしています。本校の目指す姿とその達成に向けた取組をより具体的に、効果的な教育や研修を行うため、他の施策との連動や関係機関との連携を強化することとしております。本誌7ページに掲載していますが、令和6年4月開校を目前

に岡崎特別支援学校が本校敷地内に移転してくることが決定しています。移転予定地は校内北西部の旧職員公舎南側の約1.5haですが、ここは愛知県在満報国農場に奉仕隊員として昭和20年に派遣され彼の地で亡くなった方々の鎮魂のため建立した「平和の碑」を始め、多くの記念樹等が存在する区域です。来年度から本格的に建設工事が始まるので、これらの移設等の検討を進めているところです。

近年定員を上回る受験者を確保していることに関して、農業高校との連携強化、同窓会員を始め関係各位の御支援と御協力のおかげと感謝いたしております。

また、本校卒業生の概ね5割は、一時就職を含めて自営または雇用形態で就農していることもあり、本県農業の担い手養成において本校の使命はますます重要と考えています。

この重要な使命を遂行するため、常に教育現場重視の視点で創意工夫や改善を図りながら、教育内容の一層の充実や円滑な学校運営に努めてまいりますので、同窓会の皆様にも一層の御支援をお願い申し上げます。

会員の皆様の更なる御活躍と御繁栄を心から御祈念申し上げます。あいさつとさせていただきます。

◆◆令和2年度理事会だより◆◆

令和2年2月7日(金) 午前10時30分から、令和2年度農業大学校同窓会理事会が中央教育棟研修室において開催されました。

柴田会長、友松校長のあいさつの後、柴田会長を議長に選出して議事が進められました。

第一号議案 令和元年度事業報告については、同窓会報の発行、役員会・理事会の開催、卒業生への記念品贈呈などについて報告があり、異議なく承認されました。

続いて、第二号議案 令和元年度会計決算報告について説明の後、審議に入りました。同窓会報の発送状況などの質疑応答の後、異議なく承認されました。

その後、第三号議案 令和2年度事業計画について、及び第四号議案 令和2年度会計予算について説明の後、審議に入り両議案とも異議なく承認されました。

最後に、第五号議案 理事の委嘱及び役員の内選について、現在の役員を引き続き選出するとの原案どおり承認され、全ての議事を終了しました。



新設されたICT温室を見学する理事の皆様

次期理事会
開催のお知らせ

同窓会規約により、令和3年度は次のとおり開催予定です。で、理事の皆様は出席をお願いいたします。

日時 令和3年2月5日(金)

午前10時30分から

場所 愛知県立農業大学校
中央教育棟研修室

農業大学校同窓会名簿の購入御案内

平成26年11月に15年ぶりの新名簿を発行しました。まだ御購入されていない方は、是非とも御購入をお願いいたします。

名簿領価：1冊3,000円
(消費税、送料込。振替手数料は別途)
お問い合わせは同窓会事務局まで
(電話0564-51-1602)

東海近畿プロック同窓会長会議

令和2年度の東海近畿プロック農業大学校同窓会長会議は大阪府での開催予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止となりました。

東海近畿プロックスポーツ大会

令和2年度の東海近畿プロックスポーツ大会は5月に京都府で開催予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となりました。大会を楽しみにしていた学生にとって非常に残念な結果となりました。

令和二年度役員名簿

会長	柴田 隆夫 (専八)
副会長	富永 康典 (専八)
牧野 文彦 (大研三)	
野田 留美 (大研一〇)	
山田 博嗣 (大専一)	
鶴飼 里恵 (大専一五)	
学校職員 (管理課長)	尾崎 芳弘 (専四)
伊藤 真二 (大農二九)	
学校職員 (学務科長)	山田 守克 (大専一〇)
岡本 貴幸 (大農二五)	
堤 公生 (校長)	
長尾 周幸 (元校長)	
有澤 道雄 (校長)	
大井 昌次 (校長)	
武井 昭夫 (校長)	
内山 公男 (校長)	
稲葉三千夫 (校長)	
鈴木 良憲 (校長)	
木村 茂夫 (校長)	
落合 秀彦 (校長)	
村井 智子 (校長)	
林 錡 (校長)	
伊藤 茂樹 (校長)	
犬飼 唯士 (校長)	
山田 勝 (校長)	
鈴木 敏之 (校長)	
藤井 潔 (校長)	
三浦 貞志 (校長)	
友松 啓二 (前校長)	
鈴木 吉地 (前会長)	

農学科の令和元年度卒業論文発表会を開催しました!

令和元年度農学科卒業論文発表会を、12月19日(木)に開催しました。

農学科では、2年生全員が一人1課題以上のプロジェクト活動に取り組んでいます。学生自らが農業を学ぶ中、また専攻実習に取り組み中で感じた疑問点や改善点を課題とし、様々な試験を行いながら得られたデータを科学的に検証し、卒業論文としてまとめます。

卒業論文発表会はその成果の発表の場で、専攻毎に選ばれた2年生9名(昨年度に引き続き養豚・養鶏専攻から2名発表しました)が10分間の発表を行うもので、自分の取り組んできたテーマを全学生の前で発表できる絶好の機会です。

当日は、いずれの発表者も専攻の代表であるという自覚と責任を持って、素晴らしい発表を行いました。

審査は、友松校長始め4名の審査員が「発表内容」「発表方法及び態度」「質疑に対する応答」の各審査項目に基づいて実施し、最優秀賞1名と優秀賞2名を選出しました。

各賞の受賞者は以下のとおりです。

最優秀賞：樋口翔太君(養豚・養鶏専攻)「豚深部注入カテー

テルを用いた人工授精における精液量の削減」

優秀賞：荒木亨君(切花専攻)「スプレーギクの側芽の除去量と品質」

優秀賞：渡邊亜利紗さん(作物専攻)「水稲品種「あいちのかおり」における密苗栽培の有効性検討」

最優秀賞の樋口翔太君の発表は、養豚場で普及が進む新しい人工授精技術の改善についてまとめたものでした。経済性の試算も行い、卒業後は県内でトックラスの養豚の法人に就職する彼ならではの情熱ある取組でした。

審査委員長である友松校長の講評では、限られた期間や条件の中での取組みに苦労したと思うが、どれもレベルの高い内容のある素晴らしい発表であった



左から渡邊さん、樋口君、荒木君、友松校長

と本人や専攻の関係者に労いの言葉がありました。なお、最優秀賞の樋口翔太君は「東海・近畿プロック農業大学校学生研究及び意見発表会」に本校代表として参加し優秀な成績を収め、2月に東京都で開催された「全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会」に参加しました。

お知らせ「農大だより」について

農業大学校では開かれた農大を目指して、「農大だより」を毎月発行し、各方面に配布し、本校ホームページにも掲載して広く公開しています。日頃の学習状況や学生の活躍、学校行事など様々な話題を写真とともに掲載しております。同窓会の皆様も是非ご覧ください。

本校ホームページ

「<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>」中の「農大だより」をご覧ください。また、「愛知農大」で検索しても、ほとんどの場合に本校ホームページを見ることができます。

農業大学の近況

(人数は入学時数)

1 概況

令和2年度の教育部農学科の学生数は1,2年生あわせて199名で、そのうち女子は52名で26%にあたり、ここ数年はほぼ同水準で推移しています。専攻別学生数は表1に示したとおりで、果樹専攻と野菜の2専攻、酪農専攻の学生数が多い傾向が続いています。畜産課程では46人中、19人が女性で女性率は41.3%となっております。

一方、研修部では、Uターンや他分野からの新規就職、離職者等再就職訓練を支援する長期間の就業支援研修を3つ開講しています。令和2年度は3研修で計52名が受講しています。

表1 令和2年度農学科の専攻別学生数 (単位:人)

専攻名	1年生	2年生	計
鉢物・緑花木	14 (5)	8 (2)	22 (7)
切花	14 (3)	12 (4)	26 (7)
作物	8 (2)	8 (0)	16 (2)
果樹	16 (4)	14 (4)	30 (8)
露地野菜	14 (2)	16 (3)	30 (5)
施設野菜	16 (2)	13 (2)	29 (4)
酪農	14 (5)	13 (5)	27 (10)
養豚・養鶏	8 (5)	11 (4)	19 (9)
計	104 (28)	95 (24)	199 (52)

()内は女子の人数で内数

表2 農学科の入学学生数の推移

入学年度	入学者数	女子学生数		農家子弟数	
		人数	割合	人数	割合
H27	97	24	25%	26	27%
H28	106	33	31%	32	30%
H29	96	27	28%	34	35%
H30	95	25	26%	37	39%
H31	97	24	25%	32	33%
R2	104	28	27%	29	28%

表3 農学科卒業生の進路状況

卒業年度		H27	H28	H29	H30	R1
就職	後継者	10	7	7	3	15
	農業法人	29	36	32	26	18
	一時就職後就職	1	4	4	10	13
	就職計	40	47	43	39	46
進学	30	35	43	44	37	
研修	2	2	6	3	3	
その他	10	4	4	1	1	
計	3	1	6	6	3	
計	85	89	102	93	90	

た、本年度から新たに福祉事業所職員が施設の栽培ほ場を運営するのに必要な基礎知識及び技術を修得するとともに、農作業を行う作業者にわかりやすく伝える手法を身に付けることを目的とした農福連携支援研修を開講し、19名が受講しています。

本校キャンパス内では、農学科の若い学生から社会人経験のある研修生まで、幅広い年齢層の人々が学んでいます。

2 農学科の入学状況

本校では、意欲の高い学生を確保するため、オープンキャンパスや緑の学園研修、農業改良普及課を通じた県内各JA広報誌への学生募集の掲載などを実施しています。そうした取組の結果、本年度は、定数1000名に対し過去最高の1400名

の受験者があり、試験の結果、104名が入学しました。うち、専業及び兼業農家子弟の学生は29名で入学者全体の28%、非農家出身者は72%とこの傾向は近年変わっていません。また、女子学生は28名(27%)で、県内農業高校出身者は68名(65%)でした(表2参照)。

3 農学科卒業生の進路状況

本校では、1年生のうちから進路セミナー等を実施して、進路の方向付けや就職活動の支援する体制をとっています。令和元年度農学科卒業生の進路状況は表3のとおりです。90名の卒業生のうち、親元や農業法人など就職した者は、予定者を含めると46名で全体の51%にあたります。また、就職した卒業生の多くは、農業関連企業や団体に就職しました。なお、進学者は1名で国立大学への編入試験に合格しました。

本校では職業安定法に基づく「無料職業紹介事業」を実施して、多くの農業法人等から求人をしていただき、学生の就職等を支援しています。同窓生の皆様からの求人をお待ちしております。

農学科各グループの近況

「鉢物・緑花木専攻」

ガラス温室や遮光ハウスなど約1500㎡の施設と600㎡の露地ほ場を利用して、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木、花壇苗等100種類以上の品目を栽培しています。在籍者22名



(2年生8名、1年生14名)のうち専業農家出身者は3名で、普通科高校卒業生も多くいます。

専攻実習

では、1年生の6月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木」の4つの部門に分かれ、学生の「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで、実習作業内容の充実を図っています。

本年度のプロジェクトテーマとして、「多肉植物の観賞期間を長くできる家庭での管理方法」などに取り組んでいます。単なる調査にとどまらず、品質向上や低コスト化、省力化など農業経営の改善に繋がるよう取り組んでいます。

「切花専攻」

約1500㎡の温室と300㎡の露地ほ場でキク、バラ、ストック、ヒマワリを主体に、カーネーション、ケイトウ、ペニバナ、ハイビスカスなど、10種類以上の植物を栽培しています。

本年度の在籍者26名(2年生12名、1年生14名)のうち、専業農家の子弟は8名います。1年生は、8月までに全ての品目の基礎的な栽培管理を学び、9月中旬から10月下旬までの農家派遣実習で鍛えられ、より逞



しくなっています。派遣実習後に、キク、バラ、洋花の3部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト

「野菜グループ」

「露地野菜専攻」

1年生14名、2年生16名の計30名が在籍し、露地野菜と促成イチゴの技能習得に取り組んでいます。

15haのほ場で、冬はキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、夏はスイートコーン、スイカ、ナスなど、県内の主要40品目の勉強をしています。また、イチゴは高設栽培において、昨年は環境測定装置の「アグリログ」を設置しました。今年も暖房機の更新に合わせて



新しく合わせ

て、新たに炭酸ガス発生機を導入し、本格的な環境制御技術に挑戦します。

近年の異常降雨に対応し、排水対策を強化するため、バックホーによる明きよ排水路の整備とプラソイラーによる深耕を行っています。また、作物安定のため土壌診断に基づく施肥量の適正化と夏期の遊休期間を利用して緑肥を栽培しています。また、現場の実情に応じて簡易パイプハウスから鉄骨ハウスに更新し、自動カーテン、自動給液装置を備え、アスパラガス、ネットメロンの栽培に活用しています。

【施設野菜専攻】

1年生16名、2年生13名の計29名が在籍し、40aの温室で、トマト、ナス、キュウリ、メロンを栽培しています。本専攻では、現場の実情に対応してコバック栽培や袋培地栽培など、県内で普及している有機培地養液システムを導入しています。

最近、ミニトマトを希望する農家子弟が増えたこともあり、昨年からのミニトマト温室を



高所誘引に変更し、環境測定機器の「プロファイナインダー」を導入しました。更に、今年は炭酸ガス発生装置と高圧ミスト装置を設置し、本格的な環境制御に

取り組めます。

また、近代化計画により2年間かけて進めてきたICT温室が本年2月に完成し、3月からトマト栽培を開始しました。「プロファーム」を核とした全自動制御システムを完備し、本年8月から本格的な運用が始まり、10a当たり年間収量35tを目指した学生のプロジェクト学習に活用します。最新の温室を前に学生の士気が高まっています。

【作物・果樹グループ】

16名の学生(農家子弟は5名)で、1haの大区画水田をはじめ大小9区画、計33haの水田で、大型機械を利用して水稲、小麦、大豆の栽培に取り組んでいます。

1年生は水稲栽培に関する基本知識が身に付けられるよう実習を進め、2年生からプロジェクト学習に取り組み、卒論としてまとめられます。そのため、2年生になると各学生にほ場を割り当て、担当学生が責任を持ってほ場の作業や栽培管理、生育調査等を行う体制としています。



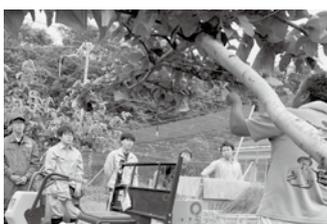
無農薬・無化学生肥料栽培や酒造好適米、飼料用稲の栽培法の検討、さらには農業総合試験場で開発した業務用多収米(愛知135号)の栽

培や、農機具メーカーと連携した密苗栽培などをテーマとして取り組み、高生産性及び付加価値の高い技術に取り組んでいます。また、JAあいち経済連の協力を得て、ラジコンヘリを使った薬剤散布の実演やドローンのデモ飛行も行いました。

【果樹専攻】

本年度は、1年生14名と2年生16名の計30名の学生で、2.2haの露地ほ場においてブドウ、ナシ、モモ、カキなど県内主要品種を栽培しています。また、イチジク、ミカン、ブドウのハウス栽培も行われており、県内の果樹営農類型の多くを学生は学ぶことができます。

多様な樹種と栽培方式のため、開花期から収穫前の7月までは摘果や袋掛け、ホルモン処理など管理作業のため学生たちは多忙な毎日を送っています。7月に入ると順次収穫が始まりますが、いづれの果実も実習販売では人気商品で、買い求めるお客様の列が絶えません。



樹種の基本的な技術を学びますが、プロジェクト学習ではテーマを決めてより専門的な知識・技術を習得します。

本年度のテーマとして、「ナシにおける環状はく皮および結束処理が果実品質に及ぼす影響」「イチジクにおける長期多段採り技術の検討」などが取り組まれています。

【畜産グループ】

【酪農専攻】

乳用牛約25頭、肉用牛約30頭、育成牛約30頭の計85頭前後の牛を1年生14名と2年生13名の学生が飼養管理しています。また、約4.5haの圃場でトウモロコシや牧草など自給飼料生産も行っています。

学生の多くは非農家出身で、本校に入学して初めて牛に触れることもありすが、1年生も、2年生や専攻の先生の助言を受けながら飼養管理技術を身につけていき、夏休み前にはしっかりと管理できるようになっています。

生き物の世話、特に搾乳作業は、年間を通して休みなく毎日の当番制で回していくため、実習時間数は全専攻の中でも突出しています。その中でも学生たちは、自分たちで名付けた牛たちを名前でも呼びかけながら愛情いっぱい飼養し、どの農場よりも人懐っこい牛群が形成されています。



最近、県外出身者や農家子弟の学生が増え、本専攻に対する評価と期待の高さがかがわれています。

昨年度は、20数年ぶりにミルクキングパーラー及び搾乳システムが更新され、新しい機械で作業効率も上がったことに加え、最新の技術に感動しながら日々の実習で多くを学んでいます。

【養豚・養鶏専攻】

6月に1年生8名を迎え、養豚コース9名と養鶏コース10名の合計19名が在籍しています。

養豚コースでは、昨年10月から豚熱ワクチンの接種が開始され、防疫対策には細心の注意を払いつつも、ほっと一息つけるようになりました。他の疾病に関しても、抗体検査を毎年実施し、自農場の衛生状況を把握することによって、衛生管理に対する学生の意識の向上に取り組んでいます。

養鶏コースでは、2年前に試験的に導入した「岡崎おうはん」の卵が実習販売で好評を博したため、今年5月に再導入することとなりました。黒地に白横斑の珍しい外観の鶏で、白色レグホーン種と比べて卵黄が大きいのが特徴です。



最近、県外出身者や農家子弟の学生が増え、本専攻に対する評価と期待の高さがかがわれています。

農大祭

農大祭2019を開催

令和元年12月7日(土) 午前10時から午後2時まで農業大学校において「農大祭2019」を開催しました。

今年のテーマは、切花専攻の白井悠人くんから応募のあった、平成から令和に変わって初めての農大祭で平成とは違うところを見せたい。という願いを込めた「新農大へのSTEP」農産物に感謝を込めて」となりました。

この日に向けて、出荷の調整や準備を行ってきましたが、数日前には雨という予報もあり、学生及び職員の皆がやきもきしていました。

当日は、雨は降らなかったものの、日差しがなく岡崎のアメダス(本校内に設置)の最高気温が7.2℃と冷え込みましたが、寒さにもかかわらず約2,500名と多くの方に来場いただきました。



会場風景

学生が丹精込めて育てた各専攻の農畜産物の直売ブースは、毎年大好評で、今



露地野菜専攻の販売



企業販売ブース



後援会販売ブース



養豚・養鶏専攻の卵販売

養豚・養鶏専攻の卵や露地野菜専攻のハクサイ、キャベツなど会場のお目当ての物を買おうとする熱気に包まれ、学生たちも午前10時の開始とともに元氣よく販売をしていました。



鉢物・緑花木専攻の販売

年も体育館で販売の鉢物・緑花木専攻のシクラメンやコチョウラン、アム等の入場整理券を求めて午前8時45分の配付開始時には長い行列ができていました。



キャンパスツアー

きたのではないのでしょうか。アンケートでも面白かったとか興味深かったという感想をいただきました。



食品バザー

ました。午前2時、午後2時、実施した農大キャンパスツアーには、併せて121名の参加者があり、普段は見ることができないほ場を巡り、農大への理解を深めていただくことができました。



農大茶会

況の農大祭となりました。農大祭2020について今年も12月5日(土)に「未来へ継げよう農業への道」雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズをテーマに農大祭を開催します。



みあい特別支援学校展示

農大茶会、環境クラフト教室、みあい特別支援学校の作品展示、後援会や協賛団体の販売ブースも多くのの方に利用していただき、来場の皆さん両手いっぱい荷物と笑顔あふれる大盛況でした。

●振込先
金融機関 あいち三河農業協同組合 美合支店
口座名義 農大祭実行委員会
口座番号 会長 堤公生 普通 0036083

●振込期限
令和2年11月10日(火)

※振込でのご協力をいただく場合は、各金融機関の振込用紙を御利用いただくとともに、御氏名の前に「同窓会 ドウソウカイ」とご記入ください。

なお、振込手数料についても御負担くださるようお願いいたします。

●農大祭2020への協力について
農大祭実務委員会では、同窓会会員の皆様から協力金を募っております。

ぜひとも皆様のご協力をお願いします。

●協力金の金額
1口 1,000円
(一口以上でお願いします)

に感じていただけるように学生が中心となって準備を進めていきます。

同窓生の皆様も、ぜひお越しいただきませうお願いいたします。

なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、中止や縮小する場合がありますので、農業大学校ホームページで確認をいただきますようお願いいたします。

オープンキャンパス2020を開催

令和2年7月4日(土)、18日(土)、8月1日(土)、8月22日(土)に「オープンキャンパス2020」を開催しました。

新型コロナウイルスの感染のため、昨年度までとは、日程を変更するとともに、ソーシャルディスタンスを確保するため各回とも定員60名で事前予約制として、開催しました。

定員制としたことから今回は、農業大学校への入学に関心のある者及びその家族又は学校の先生と対象を絞りましたが、県内はもとより岐阜県、三重県のほか、大阪府や京都府など遠方からもお越しいただきました。

参加者は、大講義室でのパワーポイントを使った農大の概要説明、キャンパスツアーで広大な敷地にあるほ場などを15人程度で1グループとして見学しました。

また、終了後の受験相談では、入学試験、入学後の学習・寮生活などについての質問に対して、職員が回答やアドバイスをを行いました。

参加者からは、「大学校についてよくわかりました。」「規模の大きさに驚いた。」といった感想が寄せられました。



キャンパスツアー(新設されたITC温室の前での説明)



概要説明を聞く参加者

岡崎特別支援学校の移転について

現在、岡崎市本宿町にある愛知県立岡崎特別支援学校は、昭和38年に開校し、小学部・中学部・高等部の肢体不自由児を対象に教育を行っています。

その施設は、建設後56年が経過し老朽化が著しく、傾斜地に立地していることから、早期の移転が求められていました。

県として移転先を調査し、農大の敷地内である現在の和耕寮西側付近への移転が決定しました。

計画では、令和2年度から調査・測量・設計などに取りかかり、令和3年度から令和5年度にかけて移転工事を行う予定です。



平和の碑

で、令和6年4月の開校を目指しています。

これに伴い、農大に現存する「平和の碑」や「記念樹」などの移設が必要となります。

太平洋戦争のさなか、食糧増産のため、当時の追進農場(現農大)を基地として、多くの若者が満州国に赴き農場の開拓を行いました。その後、昭和20年8月の終戦を迎え、帰国への道は困難を極め、多くの隊員が犠牲となりました。「平和の碑」はこの悲劇を追悼するため、昭和50年に建てられたものです。

表面には「平和」の文字が、裏面には碑文と犠牲者の氏名が刻まれています。

また、記念樹は昭和31年、昭和46年、昭和50年の卒業生などが、記念に植樹したものです。それぞれの移設先は、農大の敷地内の予定で、具体的な場所は、今後検討します。

資料室などを取り壊します

愛知県では、県全体の公共施設の老朽化に伴い、既存施設の改修と未利用施設の廃止に取り組んでいます。

農大もその対象となっております。



取り壊される資料室

り、令和2年度から調査・設計を行い、令和3年度から5年度にかけて工事が行われます。改修工事の対象は、「中央教育棟」、「旧本館」、「教室棟」及び「体育館」などで、令和3年度以降には、現在、使用していない「資料室」や「耕志寮(南寮・中寮・北寮)」、「クラブ棟」などの取り壊しが行われる予定です。

正門の北側にある「資料室」は、昭和16年に建てられた木造平屋建てで、農業大学校が追進農場だった時代に事務室として使われていました。

農大の歴史とともに建物が保存されてきましたが、老朽化が著しく、今後も利用する予定がないことから、取り壊すこととなりました。

オーストラリアへの
海外派遣研修を実施しました



記念撮影(オペラハウス)

海外の農業生産、流通現場を体験、視察し、農業者と交流することによって、農業の国際情勢に関する見識を高めることを目的として、海外派遣実習を毎年度実施しています。

令和元年度は、令和2年1月25日(土)から2月1日(土)の8日間、オーストラリアのニューサウスウェールズ州において実施し、2年生84名が参加しました。3泊4日のファームステイを行ったホークスベリー地区は、シドニーから西へ75km、欧州系移民が住み始めたところから農業が盛んなところです。

真冬の日本から一転、真夏の

南半球に到着した当日のホストファミリーとの対面式は、前夜の降雨で大変蒸し暑かったため見合わせ、順次ホストファミリーと対面し、記念撮影をした後、各ホスト先へと向かいました。

農業実習は、野菜農家でナスやトウガラシの収穫作業、果樹農家でワイン用ブドウの収穫作業、花農家でアジサイの手入れやヤシ類の移動作業、酪農農家ではヤギ乳のチーズ加工品の瓶詰め、牛へのワクチン接種補助などを行いました。ホストファミリーは都市近郊の大規模経営農家から、中山間地域の小規模な農家まである中で、日豪農業の生産方式や経営の考え方を学ぶことができました。また、



ファームステイ(牛の誘導)



ファームステイ(露地ナスの収穫)

ファームステイを通して、シャワーの使用制限など、ホテルの宿泊では決してわからないオーストラリアの水事情の厳しさを知ることができ、農業には欠かせない水の大切さを学ぶことができました。

シドニー近郊では、昨年9月から数か月間発生した大規模な山火事が日本でもニュースになっただけでしたが、ホストファミリーへ向かう道中のあちこちに山火事の跡が残っており、酪農農家からは、山火事で牛を避難させたため、この牧場にいる牛は少ないという話も聞きました。ホークスベリーには空軍基地があり、山火事の災害支援として航空自衛隊小牧基地から派遣された部隊も駐留していました。

現地農家の視察では、経営に對する考え方や栽培、飼養管理に對する日本の共通点や相違

点について積極的に質問がされました。

6日目の農業関連施設の視察では、園芸課程の学生は、中央卸売市場のシドニー・フレミントンマーケットを訪れました。農家が直接販売するエリアやバナナ専用の貯蔵庫、スイカ、リンゴなど季節を彩る青果物、バラ、ユーカーリ等の切り花が並べられている光景を眺めながら、現地ガイドの説明に耳を傾けていました。畜産課程の学生は、オーストラリアで和牛流通の大部分を担うオオサワ・エンタープライズを訪れ、大沢社長から自身のオーストラリアでの起業体験に基づいた、若者の奮起を期待する話を聞きました。

西シドニー大学では、全専攻の学生がそろって持続可能な農業の考え方に基づいた循環型農業の講義を受けました。

日程最後のシドニー市内散策



西シドニー大学



フレミントンマーケット

では、オペラハウスやミセス・マッコリーズ・ポイント、ロックスマーケットの街並みなどオーストラリアの文化や歴史に触れることができました。

今回の研修を通して、自分の目と耳で海外の農業を知ることができ、それぞれの学生にとって将来役立つ貴重な経験になったと思います。



露地野菜と施設野菜の複合経営農家

研修部の各種研修紹介

研修部では、農業者が社会情勢の変化と進歩する農業技術に対応するための研修と、一般県民が愛知県の農業を理解するための研修を年間を通して実施しています。今年度実施する研修の定員総数は約三千三百名です。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、参加人数の制限や、開催時期の延期、中止になる場合があります。(表)

1 農業者生涯教育研修

農業を担うべき者を対象に、農業者の発展段階に合わせた研修を行っています。

担い手の確保を目的とした研修は、新規参入を含む新規就農者を対象とした「ニューファーマーズ研修」、主に農業以外の分野からの新規就農希望者を対象とした「農業者育成支援研修」、公共職業安定所長から本校での農業研修受講の指示又は



雇用創出農業研修

受講推薦等を受けた離職者を対象に、農業の基礎的知識・技術を習得する「雇用創出農業研修」を実施します。

高校生を対象に、農業及び農大に対する関心を高める「緑の学園研修」一日農業体験学習として実施しています。

また、農業者の経営発展を目的とした研修としては、必要とする知識・技術をタイムリーに習得する「経営管理研修」、「生産高度化研修」、「農産物利活用研修」を実施するとともに、昨年度に引き続き、農業者が営農しながら体系的に経営を学べる場として「愛知農業次世代リーダー塾」や、経営改善効果が期待できる「GAP研修」、女性農業者の活躍を促進するための「女性農業者支援研修」を開講し、本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えた農業者の育成を図ります。

2 農業機械研修

農業機械研修は、農業を担うべき者を対象に、農業機械に関する知識・技術修得を目的とした研修を実施します。

免許を取得する「大特免許研修」



大特免許研修

「けん引免許研修」の他、研修修了証が取得できる「小型車両系建設機械研修」、「フォークリフト研修」、「アーク溶接研修」、「刈払機研修」等を実施します。

農業機械に関する研修は、免許や研修修了証の取得に直結するだけでなく、安全で効率的な農作業に不可欠であるため人気が高く、中には受付開始初日で定員に達する研修もあります。

3 農業理解研修

県民が、愛知県の農業や食料に関する正しい知識を得て、農業・農村への理解と関心を深めるための研修です。

本年度の「県民公開講座」は、小学生とその親を対象に、ほ場見学や収穫体験、料理実習を通

して農業をよく知ってもらおう研修を農大で実施しました。

この他にも、「農業ふれあい研修」として、小学校教諭を対象に、野菜づくりの基礎知識を習得して授業に役立ててもらおう研修や、小学校の授業で野菜の栽培実習を行う出前授業を実施します。

また、園児や小学生等が農大の生産施設見学を通じて農業に親しみ、理解を深めてもらいます。

更に、本年度から新たに「農福連携支援研修」が始まりました。これは、福祉事業所職員を対象とした農作物の栽培技術修得を目的とした研修です。

表 令和2年度に研修部が実施する各種研修計画一覧

研修名		回数	定員
農業者生涯教育	緑の学園	5	150
	ニューファーマーズ	—	20
	農業者育成支援	—	15
	雇用創出農業	—	30
	経営管理	4	290
	生産高度化	10	950
	農産物利活用	2	40
	GAP研修	2	50
	女性農業者支援研修	1	20
	愛知農業次世代リーダー塾	—	20
農業機械	大特免許	8	150
	けん引免許	2	22
	大型トラクター作業	1	15
	小型トラクタ利用(初心者向け)	4	36
	小型車両系建設機械	2	52
	フォークリフト	2	56
	アーク溶接	1	24
	刈払機	1	24
農業理解	県民公開講座	4	103
	農業ふれあい	—	1,185
	農福連携支援研修	—	15
	合計	—	3,267



親子で学ぶあいちの農業

平成元年度卒業式

愛知県立農業大学校教育部農学科第35回生の卒業式が、令和2年3月5日(木)に本校中央教育棟大講義室において挙行されました。令和元年度の式典では、新型コロナウイルス感染症防止対策として、来賓の人数制限や式典時間の短縮、室内換気などを実施し卒業式に臨みました。

式典では、卒業生を一人ひとり呼名し、代表者に校長先生から卒業証書が授与されました。

引き続き行われた表彰式では、農業大学校同窓会全国連盟会長賞始め各賞の表彰が行われ、17名が表彰を受けました。

また、同窓会からの記念品として、柴田会長が卒業生全員にピンバッジと印鑑を贈呈しました。



学生代表で卒業証書を受けとる柴田さん



同窓会全国連盟会長賞を受けとる荒木君

表彰状受賞者

優秀賞

〔愛知県知事賞〕

柴田 光 教育部農学科 露地野菜専攻

〔大学校長賞〕

岩附 果穂 教育部農学科 果樹専攻

滝沢 一斗 教育部農学科 露地野菜専攻

篠田 英汰 教育部農学科 果樹専攻

井本 悠登 教育部農学科 露地野菜専攻

久野 航暉 教育部農学科 鉢物・緑花木専攻

佐藤 和樹 教育部農学科 切花専攻

野田 奈希 教育部農学科 作物専攻

牧 竜大 教育部農学科 果樹専攻

早崎 天翔 教育部農学科 露地野菜専攻

西土 剛太 教育部農学科 施設野菜専攻

特別賞

〔大学校長賞〕

小林 美月 教育部農学科 切花専攻

樋口 翔太 教育部農学科 養豚・養鶏専攻

全国農業大学校協議会長賞

牟田 実優 教育部農学科 酪農専攻

農業大学校同窓会全国連盟会長賞

荒木 亨 教育部農学科 切花専攻

彦坂 渉 教育部農学科 酪農専攻

宮野 萌子 教育部農学科 養豚・養鶏専攻

〔教育部〕部長 鷹羽 靖夫

〔学務科〕科長 山本 弘司

総括専門員 伊藤 正美

主任専門員 近藤 靖之

主事 小椋 瑞輝

再任用 坂口 卓司

非常勤 森山 勝史

非常勤 辻 邦夫

非常勤 山下 篤

非常勤 田口 延行

非常勤 宇野 滋晃

〔農学科〕(兼)科長 鷹羽 靖夫

科長補佐(花きG班長) 野田 輝夫

主任専門員 坂場 功

主任専門員 近藤 満治

主任専門員 田中 良子

主任専門員 原 知明

技師 鶴田 瑞穂

非常勤 科長補佐(作物果樹G班長) 横井 信之

非常勤 科長補佐(野菜G班長) 長崎 晋作

主任 佐野 達也

主任 古川 恵

非常勤 福岡 真穂

再任用 小林 裕

非常勤 清水 常次

〔教育部〕部長 鷹羽 靖夫

主任 山本 弘司

技師 伊藤 正美

非常勤 近藤 靖之

再任用 小椋 瑞輝

非常勤 坂口 卓司

非常勤 森山 勝史

非常勤 辻 邦夫

主任専門員 長屋 浩治

主任専門員 鬼頭 雅也

主任 榎本 剛士

技師 小嶋 博樹

非常勤 関 博司

科長補佐(畜産G班長) 川上 幸裕

主任専門員 永田 完

主任専門員 山本るみ子

専門員 西村 岳

技師 春日井大輝

再任用 柳澤 淳二

非常勤 村田 結

〔研修部〕(兼)部長 石黒 浩

科長 (就農支援科) 齋藤 哲男

主任専門員 河野真砂子

再任用 水野 秀美

非常勤 梶田 靖

非常勤 中村 彰

非常勤 柴田 健

科長 (担い手支援科) 加藤 友康

主任専門員 加藤 陽一

主任専門員 落合 敏弘

再任用 福井 敏幸

非常勤 杉浦 直樹

非常勤 大澤 史季

非常勤 山本 厚

科長補佐(野菜G班長) 科長補佐(花きG班長)

非常勤 科長補佐(野菜G班長)

非常勤 科長補佐(野菜G班長)

非常勤 科長補佐(野菜G班長)

非常勤 科長補佐(野菜G班長)

非常勤 科長補佐(野菜G班長)

非常勤 科長補佐(野菜G班長)

農業大学校の職員

(令和二年七月一日現在) ○印は異動の職員

校長 堤 公生

副校長 石黒 浩

〔管理課〕

課長 石塚 浩一

主幹 森 美砂子

主査 富田 祐二

主事 大塚 宙

主事 神尾 雄基

再任用 小林 裕

非常勤 清水 常次

令和元年度 会計決算報告

1 令和元年度 一般会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
2,721,846	1,711,744	1,010,102	自平成31.1.1 至令和1.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
会費	1,860,000	1,860,000	0	農学科93名 (@20,000円)
雑収入	10	13	3	預金利息 31.2.17 5円 1.8.18 8円
繰越金	861,833	861,833	0	
計	2,721,843	2,721,846	3	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
全国連盟会費	67,364	65,864	1,500	会員割20,000円 学生1名500円×90名 振込手数料864円
支部活動費	10,000	0	10,000	
技術部会活動費	21,296	10,648	10,648	果樹技術部会 (はるき会)
旅費	90,000	78,610	11,390	東海近畿ブロック同窓会長 会議(1.6.5-6)、全国連盟 総会(1.7.16)旅費
事務用品費	40,000	0	40,000	
会報発行費	740,000	734,357	5,643	同窓会報第35号 印刷・発送
会議費	120,000	95,977	24,023	役員会1回 31.1.18 理事会1回 31.2.5開催費 (旅費、昼食代、記念品料等)
賃金	10,000	0	10,000	
記念品費	241,800	142,940	98,860	卒業生記念品 (印鑑、図書カード) 31.3.7
表彰費	70,000	0	70,000	
個人情報 業務委託費	130,464	130,464	0	会員データ年間管理料129,600円 振込手数料 864円
交際費	10,000	0	10,000	
繰出金	400,000	400,000	0	名簿作成基金 200,000円 創立記念基金 200,000円
予備費	770,919	52,884	718,035	卒業生記念品 ピンバッジ制作料(200個)
計	2,721,843	1,711,744	1,010,099	

2 令和元年度 名簿作成基金会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
1,253,127	0	1,253,127	自平成31.1.1 至令和1.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から
預金利息	5	10	5	31.2.17 5円 1.8.18 5円
名簿収入	6,000	21,000	15,000	名簿売上(7冊)
繰越金	1,032,117	1,032,117	0	前年度より繰越
計	1,238,122	1,253,127	15,005	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	1,238,122	0	1,238,122	
計	1,238,122	0	1,238,122	

3 令和元年度 創立記念基金会計収支決算

(1)普通預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
2,479,781	0	2,479,781	自平成31.1.1 至令和1.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から
預金利息	15	20	5	31.2.17 10円 1.8.18 10円
繰越金	2,279,761	2,279,761	0	前年度より繰越
計	2,479,776	2,479,781	5	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	2,479,776	0	2,479,776	
計	2,479,776	0	2,479,776	

(2)定期預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
500,582	0	500,582	自平成31.1.1 至令和1.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
預金利息	100	85	△15	31.2.5 85円
繰越金	500,497	500,497	0	前年度より繰越
計	500,597	500,582	△15	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	500,597	0	500,597	
計	500,597	0	500,597	

令和2年度 会計予算

1 令和2年度 一般会計収支予算 収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
会 費	1,800,000	1,860,000	△60,000	農学科90名
雑 収 入	13	10	3	預金利息(2月・8月)
繰 越 金	1,010,102	861,833	148,269	前年度より繰越
計	2,810,115	2,721,843	88,272	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
全国連盟費	65,864	67,364	△1,500	会員割 20,000円 学生1名 500円×90名 振込手数料 880円
支部活動費	10,000	10,000	0	5,000円×2支部
技術部会活動費	21,320	21,296	24	10,000円×2部会 振込手数料 660円×2
旅 費	90,000	90,000	0	東海近畿ブロック 会議、全国連盟総会 の出席旅費
事務用品費	40,000	40,000	0	文具等
会報発行費	760,000	740,000	20,000	同窓会報発行・発送
会 議 費	120,000	120,000	0	役員会、 理事会開催費
賃 金	11,000	10,000	1,000	
記念品費	243,000	241,800	1,200	卒業生記念品代 @2,700円×90人
表 彰 費	70,000	70,000	0	同窓会員の 表彰記念品代
個人情報業務委託費	132,880	130,464	2,416	会員データ年間管理料 132,000円 振込手数料 880円
交 際 費	10,000	10,000	0	
繰 出 金	400,000	400,000	0	名簿作成基金 200,000円 創立記念基金 200,000円
予 備 費	836,051	770,919	65,132	
計	2,810,115	2,721,843	88,272	

2 令和2年度 名簿作成基金会計収支予算 収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
繰 入 金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	10	5	5	
名簿収入	3,000	6,000	△3,000	
繰 越 金	1,253,127	1,032,117	221,010	前年度より繰越
計	1,456,137	1,238,122	218,015	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
予 備 費	1,456,137	1,238,122	218,015	
計	1,456,137	1,238,122	218,015	

3 令和2年度 創立記念基金会計収支予算

(1)普通預金 収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
繰 入 金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	20	15	5	
繰 越 金	2,479,781	2,279,761	200,020	前年度より繰越
計	2,679,801	2,479,776	200,025	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
予 備 費	2,679,801	2,479,776	200,025	
計	2,679,801	2,479,776	200,025	

(2)定期預金 収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
預金利息	85	100	△15	
繰 越 金	500,582	500,497	85	前年度より繰越
計	500,667	500,597	70	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
予 備 費	500,667	500,597	70	
計	500,667	500,597	70	

事務局から

毎年「同窓会報」を発行するに当たり、住所不明等で多数の会員に会報が届いていません。会員の皆様で、住所や姓が変わるなど状況に変化があった場合、他の会員も含めて、その状況を事務局までお知らせください。また、同窓会報の内容は農大ホームページの中の同窓会のページで見ることができます。会員様の中でホームページを見るから同窓会報の送付を経費節約のために止めていただいて結構と言われる方がおみえになりましたら、送付不要を希望される場合のみ、官製はがきにその旨を書き、住所氏名を記入し、10月31日までに農大事務局にご送付ください。その方のみ次号から送付を止めさせていただきます。

愛知県立農業大学校 同窓会事務局
同窓会長 柴田 隆夫

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1の2
電話 (0564) 51-1602 F A X (0564) 51-4831

会員データについて

愛知県立農業大学校同窓会は株式会社廣済堂へ会誌の発送業務を委託いたします。その際、お預かりする個人情報（個人情報保護法に定める日本の法令その他の規範を遵守して、左記目的の範囲でのみ利用いたします。）

株式会社廣済堂の個人情報取扱について

- いただいた個人情報は、以下の目的で使用いたします。
 - ・ 学校ならびに同窓会からの通信文書および名簿の発送
 - ・ 同窓会が本来目的により活動する場合、必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合
- 提供いただいた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。
- 個人情報は原則として本人にかぎり、開示、訂正、削除を求めることができます。

● 提供いただいた個人情報については、株式会社廣済堂「コミュニケーション」メディア事業部データベーク（以下弊社）が責任をもつて管理いたします。

● 弊社は、当社が信頼に足ると判断した外部の企業に、個人情報のデータ処理ならびに発送作業を委託することがあります。

(同窓会則に準じます)